

【事業の成果】

今年度も旭川 NPO サポートセンターは、多様な NPO・企業等と協力して様々な学習会・イベントを実施することができました。

旭川市市民活動交流センターは第 2 期の指定管理最終年となりました。気を引き締めて次のステップへの準備に取り掛からなければいけないところ、1 月末からの新型コロナウイルスの影響により、様々なイベント等を取りやめなければならず、これまでの普通の日常が普通ではなくなってきました。

こんな中でも、市民活動が委縮することなく、SNS など、様々なツールを活用して、形は違っていても情報発信し、活動を継続していることは大変心強いです。

■事業名 (旭川市指定管理事業)

旭川市市民活動交流センター指定管理業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

旭川市市民活動交流センターCoCoDe に関して、

- 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理
- 2) 市民活動団体の登録
- 3) 市民活動に関する情報収集・提供／相談・コーディネート／学習機会の提供／交流及び協働の促進
- 4) その他自主事業等



【事業期間】

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

遊んで学ぼう 冬休み ぼうさいキッズ

【事業内容・事業成果・課題等】

1)施設の使用承認／管理運営／維持管理について

① 利用件数 4,063 件、利用者数 66,430 名、利用料金 8,142,224 円。

(前年度 利用件数 4,260 件、利用者数 74,303 名、利用料金 8,724,020 円)。

② 施設清掃業務、施設敷地内管理業務、点検等その他業務について所定通り実施。

2) 市民活動団体の登録について

① 市民活動情報サイト登録 174 件 (前年度 313 件)

② 市民活動交流センター登録 (団体) 276 件 (前年度 439 件)

③ 市民活動交流センター登録 (個人) 0 件 (前年度 1 件)

3) 市民活動に関する情報収集・提供

① CoCoDe 通信の発行～毎月 1,000 部

② 利用者ニーズ把握のため、4 月と 10 月に指定管理者と利用者を代表する 6 名及びオブザーバーとして市担当課 2 名による利用者懇談会を実施。

③ CoCoDe トークサロン 毎月 1 回 (令和 2 年 2 月・3 月なし) 参加 219 名

毎月様々なテーマでゲストを迎え、参加者と交流する場として開催。

④ 日本郵便株式会社 年賀寄附金助成金説明会 8/24 参加 9 団体 14 名

日本郵便株式会社年賀寄附金事務局担当者が、初めて助成金を申請する方や検討中の方などに向け、説明会を開催。申請書の書き方や申請の際のポイントについて紹介した。

4) 相談・コーディネート

① 日常の相談・コーディネート～NPO 設立運営相談等。

相談総数 88 件。(内訳：個人 13 件、市民活動団体 70 件、企業 5 件)。(前年度 115 件)

② 決算相談会 3/7, 3/20, 3/25, 3/27 実施 参加 4 名

アンカー税理士法人札幌の佐藤はるみ税理士を講師に迎え、NPO・市民活動団体を対象に毎年行っている決算相談会。今回は新型コロナウイルス感染防止のため、電話およびメールで個別に開催した。(4 団体が参加)

5) 学習機会の提供について

① NPO カフェ少し先の未来を考えるには？～事業評価入門～ 6/28 実施 参加 20 名

最近話題の事業評価について、主にロジックモデルと PDCA、改善のプロセス等について学んだ。セミナーを通して事業評価が決して上から目線で実施されるのではなく、事業の価値を引き出すものであることが理解された。

② 遊んで学ぼう 冬休み ぼうさいキッズ 1/5～1/8 実施 参加 60 名

冬休み期間中に子ども達の防災を考える企画。防災かるた、新聞紙でスリッパ・食器づくり、防災クイズ、防災マップ等々の多彩なメニューで、子ども達の防災意識を啓発するイベントとなった。



③ 一番やさしい「評価」講座～いいプロジェクトって何だろう？～2/22～2/24 参加 25 名

これからの市民活動にかかせない事業の計画立案から実行、評価までのプロセスについて、国際協力の分野では標準的な PCM の手法を学んだ。1 日目と 2 日目はサンプル事例をもとに基礎を学び、最終日は実際の事業に応用させる内容であり、実践的かつ有用な講座となった。

6) 交流および協働の促進について

① 北彩都ごみゼロ大作戦 4/21 参加 154 名

北彩都地域を職場に持つ行政、NPO 団体、民間企業と周辺町内会の 18 団体、154 名で実施。41kg のゴミが収集された。本事業を通して地域交流が促進された。

② CoCoDe キッズワールド 2019 5/5 参加 1,942 名

今年で第 8 回目となったキッズワールド。「子供が安心して学べる・遊べる空間を創ろう！」というテーマのもと、子供達が安心して楽しめる遊びや学びの場を提供し、市民全体で子供達の健全な育成を支援するイベントを開催した。

③ キャンドルナイト in 旭川 2019 6/16 参加 200 名

キャンドルを灯してスローな夜を楽しむエコイベント。電気を消してエコな時間を過ごすのが目的。6 月の天体観測の話、ミュージックフェスタ (旭川龍谷高校吹奏楽部 & 書道部パフォーマンズ、アベルジャズ BAND) や蜜蝋キャンドル・エコバッグ作り、ばくりっこ市、フェアトレード商品、地場野菜の販売を開催。天体観測は生憎の天候の為、中止された。



④ 豊作 秋の CoCoDe 朝マルシェ 9/14 参加 80 名

グラウンドワーク西神楽、NPO 法人緑の探検隊、JA 東神楽ひまわりの会ら市内及び近郊の新鮮な地場野菜の販売のほか、猿使いによる猿回しやばくりっこ市（無料リサイクルマーケット）も実施した。

⑤ 秋の CoCoDe まつり 11/3 参加 1,300 名

毎年恒例の CoCoDe の秋のイベント。日頃、当センターを利用している市民活動団体や NPO 団体等が、ステージ・ブースで活動の成果を発表いたしました。ダンスやフリーマーケット・作品展示など幅広いジャンルが一堂に会し、盛りだくさんの 1 日となった。

⑥ CoCoDe クリスマスマーケット&キャンドルナイト in 旭川 12/14 参加 718 名

毎年恒例のクリスマスイベント。今年度は雪不足の為、スノーキャンドル／アイスクヤンドルを作ることができなかったが、例年通り市内外で活動している手作り小物の作家が出展して雑貨を販売したほか、パン 7 店によるパンマルシェ、6 団体が出演したステージイベント、Workshop 等を実施した。ひと足はよいクリスマス気分を楽しんでいただいた。



⑦ 雪あかり 2/1～2/2、2/6～2/11 実施 参加 220 名

あさひかわ雪あかりで使用するスノーキャンドルを、ボランティアの方達と作成し、点灯。今年も旭川の冬を幻想的に雪あかりで心暖まるイベントとなった。

自主事業等について

① 旭川のちっちゃな大道芸市 11/14 実施 参加 36 名

三橋とら氏、太平洋氏、松下おとしろう氏ら 3 名が、紙芝居や歌、けん玉など、日本の伝統である大道芸を披露した。コミカルなパフォーマンスや思わず引き込まれる紙芝居に歓声が上がった。けん玉体験会も実施した。

■事業名

まじめな BBQ 婚活

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

結婚を希望する未婚の男女を対象に、出会いの場を創出する。旭川 NPO サポートセンター初の屋外開催とする。神楽岡公園で BBQ を楽しみながら、婚活および交流を実施する。

【事業期間】

令和元年 7 月 28 日（日）10：30～14：00

【事業内容】

10：30 集合・アイスブレイク（積み木式自己紹介）・BBQ 準備
11：00 焼肉交流会（席替え 1 回）
12：00 お見合い回転ずし
12：45 休憩
13：00 スイカ割り・デザートタイム・連絡先交換タイム
13：30 投票・アンケート
14：00 片付け



- (1) 会場 旭川市神楽岡公園
- (2) 参加費 2,500 円（アルコール提供なし）
- (3) 対象 30 歳～45 歳の働いている男女各 8 名
- (4) 参加人数 男性 8 名、女性 5 名
- (5) スタッフ 旭川 NPO サポートセンター4 名、マリッジサポーター1 名（高崎さん）

結婚願望のある未婚男女の出会いの場を創出するため、神楽岡公園で BBQ を楽しみながら、婚活および交流を実施。投票の結果 1 組のカップルが誕生したほか、参加者同士で活発に連絡先の交換が行われた。会の終了後には、意気投合したグループで二次会に向かう姿も見受けられた。旭川 NPO サポートセンター初の屋外開催となった。

■事業名（旭川市及び周辺 7 町委託事業）
ファミリーサポートセンター
・上川中部こども緊急サポートネットワーク事業
■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

旭川市より受託したファミリーサポートセンター「育児型」は子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員になり、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の相互援助活動を行う。また 1 市 7 町から受託した「上川中部こども緊急さぽねっと」は宿泊を含め、臨時的・突発的なニーズに、予め登録している地域の人が子どもを預かる事業で、子どもを預かって欲しい人との橋渡しを行うことにより、地域の子育て支援・児童の福祉の向上を図ることを目的としている。



ファミリーサポートセンター交流会

【事業期間】

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

◎ファミリーサポートセンター「育児型」

- 1) 会員の募集、登録業務
- 2) ハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報
出張事業説明会 ① 旭川市子ども総合相談センター（2 回）
6 月 22 日(土) 9:30～12:30 参加者：7 名
11 月 9 日(土) 9:30～12:30 参加者：7 名
② 旭川蘭契こども園（末広）
2 月 15 日(土) 9:30～12:30 参加者：8 名
母子保健課乳幼児 4 か月健診時の事業説明（サプリーダー活動）
令和元年 9 月～令和 2 年 2 月 25 回
- 3) 子育て支援者養成講座年 2 回実施（「上川中部子ども緊急さぽねっと」との合同養成講座）
日程：前期／5 月 20 日.22 日.24 日.27 日.29 日.31 日 参加者：21 名

後期／10月21日.23日.28日.30日.31日.11月1日 参加者：31名

講座数：13講座、25時間

- 4) 依頼会員と提供会員の事前打ち合わせの調整
- 5) 依頼時の相互援助の連絡調整
- 6) 会員の交流・情報交換・意見交流会実施（上川中部子ども緊急さぼねっと合同研修）

① 「児童相談所・里親制度を知ろう」

日 時：令和元年7月4日(火) 10:00~12:00

場 所：旭川市市民活動交流センター2階会議室

講 師：幅 三平氏（北海道旭川児童相談所）

参加者：38名

② ファミリーサポートセンター交流会「マミーズバンドとあそぼう」

日 時：令和2年2月8日(火) 10:00~12:30

場 所：旭川市市民活動交流センターCoCoDe ホール

参加者：大人114名、子ども70名

- 7) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議
- 8) サブリーダーの情報交換を行うサブリーダー会議実施
- 9) 提供会員のレベルアップ講習会実施（「上川中部こども緊急さぼねっと」合同研修）

「ヒヤリハットと救命救急」⇒ 新型コロナウイルス感染拡大予防により中止

日 時：令和2年3月10日(火) 10:00~12:30

場 所：旭川市市民活動交流センターCoCoDe ホール

講 師：田中 久子氏（日本赤十字社幼児安全指導員）

参加者：41名予定

- 10) 月毎に市へ報告及び助成請求

- 11) 年1回通信「育輪」発行

【事業成果・課題】

- 1) 会員数
依頼会員 1,184名
提供会員 216名
両方会員 49名
総会員数 1,449名
- 2) 依頼総件数 2,110件（キャンセル 253件）
援助総件数 1,857件（H30年度 2,188件）
 - ① 保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り 461件
 - ② 保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり 478件
 - ③ 学童の登校前の預かり及び送り 26件
 - ④ 学童の放課後の迎え及び帰宅後の預かり 25件
 - ⑤ 学童保育前の預かり及び送り 102件
 - ⑥ 学童保育の迎え及び帰宅後の預かり 276件
 - ⑦ 子供の習い事等の場合の援助 302件
 - ⑧ 保育所・学校等の休み時の援助 40件
 - ⑨ 冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の場合の援助 1件

⑩ 保護者等の外出の場合の援助	142 件
⑪ その他	4 件

◎上川中部こども緊急さぼねっと

【事業内容】

- 1) 利用会員拡大のため、1 市 7 町及びハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報
 - ① 出張事業説明会（ファミリーサポートセンター「育児型」合同説明会）
 - ② 母子保健課乳幼児 4 か月健診時の事業説明
- 2) 3)5)7)9)10)11)はファミリーサポートセンター「育児型」合同事業内容
- 4) 利用会員入会手続及びスタッフ会員更新手続業務
- 6) スタッフ交流会（東神楽町：12 月 19 日開催・東神楽町保健師同席）
- 8) 月 1 回「すりーA の会」実施（開催日不定）

開 催：7 回（研修会、意見交流会等） 41 名参加

【事業成果・課題等】

- 1) 会員数 利用会員 1,461 名
 スタッフ会員 187 名
 総会員数 1,648 名
- 2) 依頼総件数 1,637 件 （キャンセル 253 件）
 コーディネート件数 1,384 件 （前年度 1,340 件）
 病気預かり 236 件
 宿泊 14 件
 元気預かり 1,024 件
 送迎 110 件

ファミリーサポートセンター「育児型」援助総件数は前年度に比べ 15%減であった。平成 30 年度からは仕事をするしないにかかわらず保育園の一時預かりが始まり、また幼稚園での延長保育もあり、子育て世帯にとって選択の幅が広がり、子育てしやすい環境になってきていると思われる。一方で、おけいこ事や塾通いなど、提供会員自家用車での送迎依頼が相変わらず増加しており要望に応えることができないケースもある。次年度からは全国展開している子育てタクシー事業が旭川市に参入予定であり、ファミリーサポートセンター講話の機会があり送迎状況を説明してきた。今後、距離のある送迎については子育てタクシーを紹介することもあると思われる。

「上川中部こども緊急さぼねっと」の利用は昨年度より微増である。今まで病後児の預かりは 2 ヶ所の保育園で行っていたが、平成 30 年度から一時的ではあるが保育施設で預かりを行う病児保育サービスが始まった。事前登録し予約制ではあるが、キャンセル待ちをしてでも緊急さぼねっとから変更するケースもあり、自ずとキャンセルが多くなってくる。利用可能人数は 3 名と少ないが利用料金も安価であり利用希望者は多くなっていると思われる。

ファミリーサポートセンター事業の周知活動について、2 年前から旭川市母子保健課と話し合いを続けてきたことで、本年度 9 月より乳幼児 4 か月健診時の待ち時間にファミリーサポートセンターのパンフレット配布と事業説明の許可が下りたことにより、いち早く母親の手元に「ファミリーサポートセンターのお守り」届けることができた。登録数 25%増加に繋がったと思う。ここでの活躍はファミリーサポートセンターのサブリーダーが担っている。また、保育園の園長からも保育園で事業説明と登録ができるようにと希望もあり実現した。

今後も子育て世代に安心安全なサポートが提供できるよう橋渡しに努めていきたいと考える。

■事業名 (旭川市委託事業)
旭川市母子家庭等日常生活支援事業
■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

様々な事由により、一時的に日常生活に支障が生じている場合や生活環境等の激変により、日常生活を営むのに特に大きな支障が生じている場合に、その生活を支援する者を派遣するなどして、母子家庭及び父子家庭の生活の安定を図ることを目的としている。

【事業期間】

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

【事業内容】

- 1) 依頼時の利用者と家庭生活支援員の生活援助及び子育て支援の連絡調整実施
- 2) 関係機関との情報交換、連携を図るための会議実施
- 3) 月毎に市へ報告及び利用料の申請実施
- 4) 家庭生活支援員資格者の手続き実施

【事業成果・課題】

① 利用者数

利用会員登録	24 名
家庭生活支援員	10 名
子育て支援員	27 名

② 利用状況

	189 件	(前年度	154 件)
生活支援	183 件	(前年度	145 件)
子育て支援	6 件	(前年度	9 件)

緊急性を要する案件を中心に支援して欲しいとの指導のもと、依頼時に事情状況等を把握、利用期間も 2～3 か月が限度となり、やや利用しにくい状況になってきている。但し、健康状態に不安を抱えて診断書提出により延長が可能なケースはある。利用者側からは要望を柔軟に対応し、援助してほしいとの要望があることを行政に伝えてはいるが対応に変化はない。

昨年度は特に生活支援の利用が多かった。生活環境を整えることができず不衛生で子どもに対しても無関心さが見られた。精神疾患の母親も多く「孤育て」しており、生活支援員が来るのを楽しみ(?)にしている方もいる。中には不登校児や不登園児等もおり十分な食事も与えてもらえず異臭がするような生活圏の中にいる子どもたちの健康面も心配になる。母子家庭等日常支援だけのサポートでは不十分。違う角度から行政のサポートが望まれる。

また、サポートセンターも小児科医、精神科医、児童相談所、発達支援センターの先生、行政等のケース会議にも出席をもとめられることも多くなった。

長期に及びそうなケースは、母親の病状の診断書を提出してもらいもう少し長いスパンで支援ができるように行政に申し出しているケースもある。

どの事業においても親が孤立しないような子育て環境をつくり、そして地域が子育てを担える

よう、少子化と言われる時代にも頼りにされるような支援であり続けたいと思う。

■事業名 (旭川市委託事業)

子育て交流活動推進事業実施業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育ては親だけでなく、地域社会全体の支えが大切ということから、子育てに関する様々な関係機関や団体などが連携して、保育所や、幼稚園に通っていない児童を家庭において養育している全ての保護者がいつでも子育てについて相談でき、また、保護者同士や子育て経験者等と交流できる環境づくりを行う。

旭川市内には子育て中の親が自主的に活動する育児サークルや、地域住民で子育てを支援する子育てサロンがあり、そうした団体に対して、活動の際の会場費の補助を行う。

また子育て支援を望む団体・個人が人材バンクに登録し、育児サークルや子育てサロンに託児や、特技等でサポートを行う際の、コーディネートを行い、子育て環境の充実に寄与する。



「わんぱくフェスタ」

【事業期間】

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

【事業内容・事業成果】

- 1) 登録している育児サークルに対する支援を地域子育て支援センターと連携して行う。

会場費補助 212 件、 93,730 円

- 2) 育児サークル合同イベント（わんぱくフェスティバル）の実施。

日 程 H31 年 9 月 10 日（火） 10:00～11:30

会 場 旭川市市民活動交流センター CoCoDe

参加者 子ども 95 名、 大人 84 名

- 3) 育児サークルへの支援員の派遣

派遣数 37 件 派遣者数 85 名

- 4) 育児サークル事業説明会の実施 2 回

会 場 旭川市市民活動交流センター CoCoDe

日 程 ① H31 年 5 月 30 日（木） 10:00～12:00 20 名

② H31 年 10 月 17 日（木） 10:00～12:00 19 名

- 5) 子育てサロンへの支援

会場費補助 66 件、 79,300 円

支援員派遣数 5 件、 支援員派遣者数 7 名

- 6) 子育てサロン意見交換会の実施 2 回

会 場 旭川市市民活動交流センター CoCoDe

日 程 ① H31 年 5 月 16 日（木） 10:00～11:30 25 名

② R2 年 1 月 23 日（木） 10:00～11:30 22 名

7) その他の支援

子育て支援センター、児童センター、留守家庭児童会、市立保育所、保健所等

支援員派遣数 95 件、 支援員派遣者数 233 件

8) 子育て人材バンクの登録 98 名

9) 育児サークル・子育てサロンの支援に関するニーズ調査及び分析

育児サークルは母親の就労で保育園入所や満 3 歳で幼稚園入園可能なこともあり、会員不足でサークル休会や解散が出はじめている。子育て中の親にとって、現にあるサークル活動が魅力あるものとなる様、子育て支援センターの先生方の協力を得ながら継続的な支援をしていく必要がある。

また、子育てサロンもサークル同様、参加者も少なくなり、運営費不足、後継者不足等の現状も踏まえた上で、より一層旭川市から補助を得られるよう支援を押し量りながら継続につなげていきたい。

■事業名 (社団法人北海道医師会)

北海道に在住する医師を対象とした緊急時保育支援事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育て中の医師の仕事と家庭を両立させるためのサポートで、利用者が緊急に支援を必要とするとき、北海道医師会が利用者に代わって旭川 NPO サポートセンターに依頼するもので、女性医師等の働く環境を整えることによりキャリアの継続に寄与することを目的とする。

【事業期間】平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

【事業内容・事業成果】

1) 事業内容は上川中部こども緊急さぼねつとに準ずる。

登録医師 19 名

利用者数 4 名

利用件数 11 件

登録にあたっては、ファミリーサポートセンターの登録時に情報提供し、入会登録を促す。旭川市に於いてはファミリーサポートセンター事業が充実しており、また助成制度もあるために北海道医師会からの利用券を使用せずとも女性医師等にとってはキャリア継続できる環境が整えられつつある。その他研修等の集団託児も実施している。

■事業名

産前産後ケア

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

赤ちゃんとの対面で喜び、楽しいはずの出産が、出産後に情緒不安定、不眠、不安、ふさぎ込む、注意散漫、イライラ等、産後うつになっていく母親が少なからずいる。核家族化が進み、希薄な人

間関係の中、母親自身の経験不足などで出産・育児が辛いものになってきている。育児支援を実施している中で、産前産後、不安でいっぱいの母親へ寄り添う支援の必要性を感じてきた。子育て経験者である支援者だからできるお手伝いによって、そうした母親への自信回復の一助となることを目的とする。

【事業期間】

平成31年4月1日～令和2年3月31日

妊娠・出産により精神的に不安定になりやすい時期の家事をサポートする事業。掃除・洗濯・買い物・調理の下準備等を緊急さぼねっとの登録スタッフの中から、産前産後ケア事業に登録した方が訪問している。

スタッフ	13名
依頼件数	17件
時間数	17時間

転勤族の方や、親がいても仕事をしているなど昔のように頼れる人も少なく、スタッフは感謝されている。また、里帰り出産時の依頼も受け入れている。

事業としてスタッフの地道な活動が3年経過した。旭川市から事業の必要性を認識し次年度は何とか予算を取るので協力して欲しいとの要請があった。

また、「上川中部こども緊急さぼねっと」事業での係わりから、旭川市以外の7町からも産前産後ケア事業について問い合わせがあり、次年度鷹栖町とは産前産後サポート事業に関する覚書を交わすことになった。

母親へのこうしたサポートメニューが増えることにより、より安心安全に子育てができる環境が整備されていく。

■事業名 中頓別まちづくりゼミナール「地域運営におけるNPOの役割」

■北海道立市民活動促進センター／NPO法人旭川NPOサポートセンター

共催 中頓別町まちづくり協議会



【目的】

道北に位置する中頓別町は生産年齢人口の急減で町の担い手が不足し、地域の活力が失われている状況にある。しかしながら、一方では地方へ移住したいというニーズもあり、住民が安心して暮らし、持続的な地域経営ができる為には、地域コミュニティの活性化が不可欠であり、それをカタチづくる組織の設立が重要になっている。それを担うNPO設立を支援するとともに、まちづくり支援を行うための講座を実施する。

【事業期間】

令和元年9月13日（金）18：00～21：00

【事業内容】

18:00～18:30 講師：長嶋正明（NPO法人旭川NPOサポートセンター）

18:30～19:00 講師：谷井貞夫（NPO法人北見NPOサポートセンター）

19:10~20:10 協働に関するワークショップ

20:10~21:00 意見交換（個別相談）

- (1) 会 場 中頓別町役場
- (2) 参加費 無料
- (3) 対 象 NPO 設立、まちづくりに関心ある町民や行政職員など
- (4) 参加人数 17 名
- (5) スタッフ 2 名



意見交換については本来個別相談を予定していたが、全員から講座自体や今後の活動に対する意見交換を行う場となった。意見交換としては、参加者の非営利活動に対する考えが聞けたり、自分自身の活動と照らして共感が得られたという意見もあった。その他、講座に対してはアンケート調査／クリッカーに対する意見や、今回は協議会のメンバーだけでなく、町長の他に2名の議員と2名の町職員が参加されていて、将来が明るいといった意見もあった。また、協議会事務局に早く NPO 法人化して欲しいという要望も出された。協議会事務局長からは現状の報告と今後の予定が話され、意義深い講座になった。

■ 事業名(幌延町主催)

幌延町地域コミュニティ形成事業

■ 委託事業



【目的】

地域運営組織等が運営する集落支援センターによって集落機能を維持し、いつまでも暮らし続けられる地域・集落形成の仕組みの構築を図るため、地域・集落イベント等に参画し、地域団体・地域人材の発掘連携により、地域・集落の課題等の収集に努める。(2019 年は 5 か年計画の初年度である)。

【内容】

地域・集落イベント等開催にあたり、円滑な実施体制の構築と運営をサポートし、イベントを通して構築した団体・人材を連携させ地域・集落の課題、中長期的な未来像形成に向けた座談会を開催する。

【事業期間】

令和元年 5 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

◆地域集落イベントといかんサロン開催協力および問寒別地区に係る情報収集・懇談会

日 時：令和元年6月6日（木）13：00～16：45

会 場：問寒別町民会館

対 象：まちづくりに関心のある町民・企業や行政職員など

参 加：9名



【趣旨・目的】

問寒別の実情について情報提供していただき、実情を知ったうえで今後の対応を検討していく。

【事業内容】

13:00～15:00 地域集落イベントといかんサロン開催協力

15:00～16:45 問寒別地区に係る情報収集・懇談会

株式会社ほわいえ様主催の出張相談の場「といかんサロン」を活用し、誰でも気軽に楽しく集える場として、地域に住む住民と一緒にどら焼きを作り、おしゃべりをするなど、住民同士の交流を図った。住民から山菜の差し入れもあり、美味しく楽しい交流会となった。町民の方から参加者への山菜の採り方や調理の仕方なども伝えられた。その後、地域住民に地域コミュニティ形成事業について説明と協力を得るために、問寒別町の現状についてニーズ調査のために情報収集と懇談を行った。

◆おためし地域おこし協力隊体験会 問寒別地区仮装盆踊り 住民説明会

南幌延駅還暦記念お化粧直し会 事業説明会

日 時：令和元年7月8日（火）～7月9日（水）

会 場：問寒別地域コミュニティーセンター、幌延町役場

参 加：17名（参加者の都合に合わせ、昼夜2回開催）



【趣旨・目的】

地域で行っている盆踊りが集落の人口減少や高齢化により、人手不足のため運営が厳しくなっているのが課題である。次年度に地域おこし協力隊を任命して、集落支援を行う計画があるため、その前段として、おためし地域おこし協力隊を募集し、問寒別の盆踊りに参加し、イベントを盛り上げていただきながら地域を知ってもらいたい。そのため地域で活躍され、地域に精通している住民の方に問寒別の実情について情報提供していただき、実情を知ったうえで今後の対応を検討していく。

【事業内容】

7月8日 15:00～16:45 問寒別地区仮装盆踊り 住民説明会

7月8日 19:00～20:20 上に同じ

7月9日 15:00～ 南幌延駅還暦記念お化粧直し会

7月9日 19:00～ 上に同じ

地域コミュニティ形成事業において、おためし地域おこし協力隊を募集し、地域の盆踊りイベントに参加してもらうにあたり、地域住民への説明、および地域イベントでの住民協力を得るために、意見交換した。

◆「夏のおためし地域おこし協力隊」体験会 幌延町滞在協力

日 時：令和元年 8 月 16 日（金）～8 月 18 日（日）

会 場：幌延町役場、芳野牧場、問寒別町町民会館ほか

参 加：17 名



【趣旨・目的】

地域や集落の支援、問寒別地区の盆踊りをやっている人たちと関わりを持つ、集落支援員と協働で、集落の現状や課題を探る。

【事業内容】

8 月 16 日 14:00～15:00 オリエンテーション

8 月 16 日 15:00～17:00 ホスピタリティ・マネジメント～地域の人とのコミュニケーションを深める

講 師：吉本平史氏（人とデザイン研究所代表）

8 月 16 日 18:30～21:00 ウェルカムパーティ参加

8 月 17 日 5:00～7:30 搾乳体験同行

8 月 18 日 9:00～12:00 幌延町内視察（深地層研究所視察、下沼地区視察など）

8 月 18 日 13:00～23:00 問寒別盆踊り大会 出店サポート



地域コミュニティ形成事業において、おためし地域おこし協力隊を募集し、地域の盆踊りイベントに参加してもらい、受入れ地域とのマッチングを図り、集落支援に適した人材の見極めの場とした。

★子育てイベント打合せ及び意見交換

日 時：令和元年 8 月 16 日（金）11:30～12:10

会 場：幌延町認定こども園たんたん

出 席：旭川 NPO サポートセンター森田・佐野／保育支援係長 鈴木由香里氏

★公共交通空白地有償運送についての相談対応

日 時：令和元年 8 月 17 日（土）11:00～11:50

会 場：幌延町役場

出 席：旭川 NPO サポートセンター森田・桜本・佐野／幌延町
議会議員・下沼地区住民富樫氏／幌延町役場 梶氏



◆先進地視察研修

日 時：令和元年 9 月 2 日（月）～9 月 4 日（水）

会 場：芽室町 上美生地区（9 月 2・3 日）

旭川市 西神楽地区（9 月 3 日）

下川町 一の橋地区（9月4日）

参 加：11 名

【趣旨・目的】

地域集落で先進的な取組を実施している地域を視察し、今後の幌延のまちづくり・地域活性化に活かす。

【事業内容】

9月2日 15:00～18:00 芽室町上美生地区（ほしぞらプラン会議）

9月3日 9:00～11:00 芽室町上美生地区（NPO 法人上美生）

9月3日 14:30～16:30 旭川市西神楽地区

9月4日 10:30～12:00 下川町一の橋地区

本事業に随行参加し、意見交換、事務、一部視察先のアレンジを行った。視察に参加した地域住民にはインタビュー調査も行った。また広島のア藤氏にも参加を呼びかけ、10月に実施される講演会の下打合せを行いました。



◆「下沼祭典 お寺茶房」イベント参加、支援

日 時：令和元年9月12日（金）12:00～14:30

会 場：下沼町法昌寺

参 加：9 名

【趣旨・目的】

下沼神社の祭典に合わせて、地域の住民に気軽に集まってもらい、食事やお茶を飲みながら交流する機会を提供する。交流の中で地域の課題などについての情報収集。なかなか地域で集まる機会が少なく、家にとじこもりがちな住民に対して、今後同様なサロンを定期的で開催できるか試験的に実施。



【事業内容】

地域住民の庄司氏を講師にエコたわし作り。ご住職手打ちのお蕎麦や、うどん・おにぎり、お茶やお菓子を食して懇談。

◆南幌延駅 還暦記念 待合所お化粧直し会イベントサポート

日 時：令和元年10月13日（日）9:00～15:00

会 場：南幌延駅

参 加：31 名

【趣旨・目的】

秘境駅として秘境駅ファンや観光客の注目を浴びている、南幌延駅の開駅60周年を記念して、老朽化している駅待合所の改修をイベントとして行った。改修に合わせて、集落住民や市街地住民、鉄道ファンとの交流などで住民のニーズ把握も合わせて行った。



【事業内容】

7月9日に行った住民説明会での様々な要望を反映させて、地元事業者が9月に修繕工事を行った後、参加者で外壁のペンキ塗りと内部の装飾制作、「ミナミほろりんさん」キャラクター板を取り付けた。また昼食を囲んで、地域の住民から昔話や、地域の困りごとなどについての話があった。多くの

参加者が集い交流することで、地域のお年寄りが喜ぶ姿があった。

◆若者座談会

日 時：令和元年 10 月 19 日（土）13:00～15:00

会 場：幌延町生涯学習センター（研修室・調理実習室）

参 加：20 代～40 代の若者 11 名ほか計 17 名

【趣旨・目的】

町郊外で農家を営む若者や市街地区の 20 代～40 代の若者が、各々抱える将来の不安や課題、まちの魅力や期待などについてぎくばらんに意見交換、共有する。

【事業内容】

自己紹介・ワークショップ

郵便局員、酪農家、信金職員、建設業など、さまざまな職業の若者たちが、幌延に暮らして良い点、困っていることなどをワークショップを通して発表し、意見を交換した。普段かかわることの少ない、幌延町の若者のリアルな声を聴くことができた。



◆まちづくり講演会&ワークショップ

ここで暮らし続けたいの想いをつなぐ・パート 2

～地域の暮らしを守り創る 次の時代へ～

日 時：令和元年 10 月 20 日（土）13:00～15:30

会 場：問寒別生涯学習センターセンター多目的ホール

参 加：18 名

【趣旨・目的】

地域を今後も維持していくために、必要なことやものが何か、地域住民でできることは何かを考えていただくきっかけとするために、広島の中山間地域で活動をしている講師をお呼びして、講話をして頂き、地域住民の意識の醸成を図る。

【事業内容】

講 演：「ここで暮らし続けたいの想いをつなぐ」

講 師：安藤周治氏（NPO 法人ひろしまね理事長）

ワークショップ テーマ：「地域の夢プラン」

進 行：安藤周治氏（NPO 法人ひろしまね理事長）

アンケート～私たちの地域、これがあったらうれしい！ ヒト・モノ・コト～

ワークショップでは 5～6 人でグループを作り、3 グループに分かれ、講演を聞いて感じたことや、今取り組んでいること、これからやってみたいことについて話し合いをして、その後グループごとに発表してもらい、全体で共有した。アンケートでは参加者に「私たちの地域これがあったらうれしい」をシールで投票してもらった。



◆講演会&ワークショップ「そうだ まちまかない会社をつくろう」

第 1 回～田舎の力で目にものを見せよう～生まれ来る子どもたちに何を…

日 時：令和2年1月18日（土）13:00～16:00
 会 場：問寒別生涯学習センターセンター多目的ホール
 参 加：20名

【趣旨・目的】

地域を今後も持続可能にしていくために、今後集落支援センターでできることや、地域住民ができることが何かのヒントを得ていただく。

【事業内容】

- (1) 50年後の暮らしを想像しよう
 ～2069年の暮らしはどうなっている？～
- (2) 幌延町の目指す姿～こんなまちになっていたらいいなあ～
- (3) 幌延町の強みと弱み～まさか弱みしかないとは思ってないよね～
- (4) 目指す姿の実現のために～行政頼みでは無理だよ自分達のできることを考えよう



道内各地で調査研究をされている地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所副所長の松村博文氏を招いて、ご講演及びワークショップを行った。

◆楽しく学ぼう！コーディネーショントレーニング&子育て懇談会

日 時：令和2年2月6日（木）11:45～15:30
 会 場：問寒別生涯学習センターセンター多目的ホール
 参 加：乳幼児・親 17名、シニア 4名
 講 師：NPO法人とうまスポーツクラブ 理事長 上野和香子氏

【趣旨・目的】

問寒別地区で親子遊び体験で子供の成長を促しつつ、親子のふれあいの場として毎週木曜日に活動を展開する「おひさま子育て会」事業と連携し、地域資源発掘、課題把握等に努める。

【事業内容】

- 11:45～12:35 お母さんとよちよち歩きの赤ちゃんのトレーニング&懇談
 12:35～13:30 持ち寄りランチと懇談
 13:30～15:30 お母さんとシニア対象コーディネーショントレーニング



お母さんとよちよち歩きの子どもと一緒にコーディネーショントレーニングなど、家庭でもできる親子でのふれあいを学び、体験した。また、講師の上野さんを囲み、食事を楽しみながら、子育ての不安や悩みなどを話し合い、共有することで地域内での新たな関係性も育まれた。



◆「冬のおためし地域おこし協力隊体験会」幌延町滞在協力

日 時：令和2年2月8日（土）～2月9日（日）

会 場：幌延町役場

参 加：37名

【趣旨・目的】

地域コミュニティ形成事業において、おためし地域おこし協力隊を募集し、地域イベント「ワラベンチャースノーモービル体験」に参加してもらい、受入れ地域とのマッチングを図り、集落支援に適した人材の見極めの場とする。

交流会では問寒別地域で地域おこし協力隊員として次年度より活動する予定の候補者と、受入れ地域住民とのコミュニケーションを図る。

【事業内容】

2月8日 14:00～15:00 オリエンテーション

2月8日 15:00～17:00

ホスピタリティ・マネジメント

～地域の人とのコミュニケーションを深める

講 師：吉本平史氏（人とデザイン研究所代表）

2月8日 19:30～21:00 地域住民交流会

2月9日 9:00～13:30 スノーモービルランド

2月9日 14:00～17:00 町内視察



問寒別地域で地域おこし協力隊員として次年度より活動する予定の候補者と地域住民が積極的に交流し、お互いの情報を交換し合いました。2日目のスノーモービルランドでは、スノーモービルやチューブ滑りを子どもたちや地域住民と一緒に楽しみ、昼食のバーベキューの焼き台設置や、炭おこしなどに汗を流した。町内視察では、問寒別町内や町内の秘境駅をバスで回り視察した。

◆「冬休み 絵画・作文コンクール」賞状および副賞準備

日 時：令和1年12月～令和2年1月

参 加：小学生4名

絵画の部3点、作文の部1点についての審査結果を受けて、賞状及び副賞（図書券）を準備した。

◆講演会&ワークショップ「そうだ まちまかない会社をつくろう」

第2回～50年後の未来から考えよう～

日 時：令和2年2月15日（土）13:00～15:00

会 場：問寒別生涯学習センター多目的ホール



参 加：20 名

【趣旨・目的】

地域を今後も持続可能にしていくために、今後集落支援センターでできることや、地域住民ができることが何かのヒントを得ていただくために、道内各地で調査研究をされている地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所副所長の松村博文氏を招いて、講演及びワークショップを行った。

【その他関連業務】

◆事業企画及び準備、連絡調整 ポスター・チラシなど広報資料を作成した。

◆町民向け冊子作成業務

今年度の事業について、町民に広く周知するための冊子作成を進め提出した。

◆調査報告書作成業務

今年度実施した「地域コミュニティ形成事業」について調査報告書作成を進め提出した。

◆秘境駅クッキー製作受託先調査

秘境駅クッキーぬかにゃんの型抜きクッキーの製作受託先を調査した。



↑町民向け冊子

■事業名

JR 宗谷線車内販売事業(主催:旭川市・旭川物産協会)

■協力事業



【目的】JR 宗谷線周辺地域の活性化を目指し、地元の特産品の車内販売を通じて、障がい者などの雇用の場の多様化や JR の利用促進、魅力アップを図る。

【事業期間】平成 31 年 4 月 6 日(土)、令和元年 5 月 18 日(土)、6 月 8 日(土)、7 月 13 日(土)、8 月 31 日(土)、9 月 21 日(土)、10 月 12 日(土)、11 月 9 日(土)、12 月 7 日(土)、令和 2 年 1 月 18 日(土)、2 月より中止

【事業内容】

JR 宗谷線の特急サロベツ 1 号 13:35 分発に旭川駅より乗車し、和寒～美深間において特産品の販売を実施し、美深で降車。復路はサロベツ 4 号 15:27 分発に乗車し、美深～和寒間で特産品を販売。

1) 実施団体：旭川ひだまりの会

■事業名

旭川市環境アドバイザー派遣事業

■協力事業



【目的】旭川市に環境アドバイザーとして登録し、環境に関わるプログラムを提供し、市民に環境保全に対する理解を深める。

【事業期間】

- ① 令和1年5月23日（木）10：00～12：00
- ② 令和1年11月7日（木）10：00～12：00

【事業内容】

1) プログラム

- ① 地球温暖化と私たちができること～マイ箸づくり～
- ② 捨てられてしまう新聞紙を使ってエコバッグを作しましょう

2) 会場

- ① 旭川市中央公民館
- ② 神居公民館

3) 参加者

- ① 旭川市中央公民館百寿大学受講者（54名）
- ② 神居公民館 神居女性大学受講者（30名）

■事業名

北海道空き家対策ネットワーク構築による、生活困窮者の就労訓練事業

■年賀寄附金配分事業



【目的】全国的にも増加している空き家。旭川市でも約 23,000 戸と、空き家率が 13.3%にもなっている。一方旭川市において、引きこもりや生活保護受給者など生活困窮者が増加している。当事業はそのような生活困窮者の方々に、空き家整理や管理などの作業を通じて、就労の機会を提供し、自立への一助とする。

【事業期間】令和1年4月25日～令和2年3月31日

【事業内容】

全道7地域の間接支援団体と連携して、HP上で空き家データベースの作成や、整理管理などの募集を行い、希望する市民のお宅の整理等を、登録している生活困窮者に作業していただいた。

